

MAST

Mikawa Akabane Shizuoka Toyohashi

岡崎教区広報誌

2021年 9月

第2号

発行所／真宗大谷派岡崎教務所

発行人／木嶋 孝慈

編集／教区教化委員会メディア部会

印刷／ブラザー印刷株式会社

教務所長挨拶 参議会議員就任挨拶

伝道研修会報告

てら活（お寺の活動紹介）

田原惟信という人を知っていますか



教務所長挨拶

「着任挨拶」



岡崎教務所長
木嶋 孝慈
きしま こうじ

私、去る6月30日付で、岡崎教務所長と三河別院輪番を拝命いたしました、木嶋孝慈と申します。自坊は、滋賀県は琵琶湖の西、高島市の「JR湖西線」の駅でいいますと「近江高島」で、駅近くの小坊「真宗大谷派妙琳寺」を預からせていただいています。教区でいいますと京都教区になります。皆様方には、平素より「法義相統・本廟護持」に多大なるお力添えを賜っておりますこと、深く御礼申し上げます。

当岡崎教区は愛知県の三河地域から、静岡県全県に及ぶ大変広域な教区であり、三河・赤羽・豊橋・静岡の四つの別院が所在する大教区であり、なお且つ宗祖聖人のご教化に始まり、第8代蓮如上人ご在世の時、上人の熱心なご教化を賜り、数多くの真宗門徒がお生まれになった地であると伺っております。

これまでの宗務経験の中で、これだけの広域な大教区に赴任したことがなく、驚嘆と動揺を隠しきれません。

そうはいつても2023年には、宗祖の誕生八百五十年立教開宗八百年の慶讃法要が目の前に迫っています。そんな中、以前に大聖寺教区にお世話になった時、(故)因乗寺住職、家山勉先生から教えてもらった一言が、今、改めて問い返されます。どのような言葉かと申しますと、「人間はね、自分以外の者のために生き始めた時から、本当の人生が始まるんだよ」という言葉でございました。「自分さえ良ければ、他はどうなってもかまわない」という考えが蔓延する今日にあって、「真実だけを見つめ続けられ、御同朋御同行とかしづかれた親鸞聖人のみ教え」を、皆様方とともにご一緒に問い訪ね、慶讃法要にお遇いしたいと存じます。

浅学菲才の身ではありませんが、皆様方のお力添えをいただきながら、教区発展・別院興隆に精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いを申しあげまして、着任のご挨拶に代えさせていただきます。 敬具

所属寺…京都教区 近江第26組 妙琳寺

宗務歴…本廟部・大谷祖廟事務所

京都・福井・熊本・大聖寺・三重・四国

教務所

「転任挨拶」

三重教務所長
やすだ まさし
安田 雅

岡崎教区の皆様方には、ますます為法ご精進のことと拝察申し上げます。

このたび、三重教務所長兼ねて桑名別院輪番を拝命し、岡崎教区を離任いたしました。2017年7月に着任以来、四年間にわたり教区の皆様にたいへんお世話になりましたこと心より御礼申し上げます。

顧みれば、四年前に着任した折には、地域教化センター、学校法人尾張学園、教学研鑽機関の設置、教区会館の老朽化等をはじめとする教区の課題が山積しておりました。新型コロナウイルス感染症の影響によって課題整理の歩みは足踏みを余儀なくされましたが、検討委員会のご尽力によって、教区の慶讃事業としてこれらの課題に取り組まれていくことが決定されたことは、岡崎教区の将来が拓かれる大きな機縁となることと確信するものであります。

その取り組みに携わることができないのは本当に残念ですが、経験豊かな木嶋新所長のもとで新たな岡崎教区のかたちが創造されることと期待します。お近くにお立ち寄りの際は是非とも桑名別院にご参拝いただき、お声を掛けいただきますようお願い申し上げます。 合掌

参議会議員就任挨拶

このたび、参議会議員が改選され、岡崎教区から3名の議員が選出されました。向後3年間、宗門の運営にご尽力いただきます。

参議会は宗議会と共に宗門の最高議決機関である宗会を構成し、門徒の宗政参加により宗門の健全な運営が図られています。

今回は、就任された方々から抱負をお寄せいただきました。

第7組浄専寺門徒

黒柳 芳因



このたび教区門徒会臨時会において、参議会議員に推選されお役をいただきました。緊張感を持ちながら、さまざまな課題に向き合って行きたいと考えております。昨年から続く新型コロナウイルス感染症の中、当たり前前にあった日常を過ごすことができない日々が続いております。宗派では2023年にお迎えする慶讃法要の準備が少し

見えてきました。私の心にも何かをしなければいけないと、焦りにも似た感情が出てきました。何をどうするべきか？何をしなければならぬのか？この感情は私だけでしょうか。多くの皆さんにこの疑問を投げかけて教えをいただく毎日です。

私が所属する第7組では昨年12月より、今回リニューアルされた『正信偈書写本』を使い書写をしています。その中で、法話をいただき、人と生まれたことの意味をたずねて、共に念仏ができることを慶び讃える御仏事と確認し、書写本を携え慶讃法要に参拝する日を楽しみにしています。

教区においては、お待ち受け法要を行うべく議論が重ねられていると聞いています。時間があまりないですが、具体的な計画が楽しみです。教区教化テーマ「見つけよう、生まれた意義と生きる喜び」生活の中心に南無阿弥陀仏を」を今一度確認しながら日々の聞法に努めてまい

りたいと思います。

第10組法圓寺門徒

田中 弘



このたび、教区門徒会の皆様より参議会議員に推薦いただき、その重みを痛感しております。初めての当選で身の引き締まる思いであります。

各寺院において、「新たなご縁づくり」の活動が必要と思われます。特に各地方の門徒の皆様から、深く愛され理解し、同朋会運動の推進、真宗大谷派の健やかな運営に微力ながら精進して宗門活動、教化並びに先祖に感謝する心を原点として生活をしていきたいと思っています。

今後とも真宗の興隆のため最善を尽くしてまいります。

私の好きなお話に、仏教とは「仏の教え」であり「仏になる教え」とございます。これは教えに遭遇した人自身が課題となる教えであるということ。私の生き方が問われてくる教え、それが仏教です。

自分のことは自分がよく理解して

いるように思いますが、蓮如上人は「人のわるき事は、能く能くみゆるなり。わがみのわるき事は、おぼえざるものなり。」（蓮如上人御一代記聞書）と説いています。

第34組西敬寺門徒

中山 恵津子



このたび、参議会議員の改選にあたり、引き続き参議会議員を務めさせていただくことになり、身の引き締まる思いであります。

2023年に、宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年の慶讃法要をお迎えするにあたり、私たち門徒はいかにして次世代に、宗祖の教えを伝えていくのかを基本の考えとして、聞法していかなくてはなりません。

また、宗門では男女共同参画の推進に力を注いでいます。今年は、教区門徒会に2人の女性門徒会員が加わりとてもうれしいです。

これからの3年間、皆様のご指導をいただきながら、宗門興隆のため、責務を果たしていきたいと思っています。

6月10日(木)と21日(月)に酒井義一氏、百々海真氏を講師に迎え、「これから」「これまで」の聞法について、新型コロナウイルスの流行に直面して」というテーマで開催されました。

1、研修までの道のりと総括(一郷)

私たち教区教化委員は1期3年の任にあたるが、奇しくもその初年度に100年に一度とも言われるコロナウイルス感染症の世界的蔓延に直面することになった。また、委員同士がお互いを知る機会すらままならない中で部会が始まった。

愛知と静岡の委員から構成される当研修部会は、緊急事態宣言の発令により対面式での会合を開くことが度々困難となり、委員同士のコミュニケーション不足は現在も続いているが、年度初めの段階で「聞法教化の停滞期を生まない最大限の努力をしていこう」という共通の目標が掲げられた。

そして研修の実施に向け、研修ごとに担当委員を決めることで、受け持った研修に担当者がある程度專注するができ、企画内容をより深めることができた。

また、さまざまな課題をはらんでいるが、オンライン会議システムZoomの利用を早期から試行することで、委員同士の思いを確かめるための機会を最大限確保する工夫をした。その経験も活

かし結果的に研修自体もリモート開催とする判断が導かれたことで、コロナの深刻な影響を受けている東京の両講師からタイムリーに大切なお話を聞く機会を得ることができた。

また安田前教務所長の了承とメディア部会の協力を得て実施された教区公式サイトでの開催告知によって北海道や東京、富山、名古屋各教区からも参加者があり、「教区の枠を超えた人との出会いと聞法の機会の実現」というリモート研修ならではの将来性を感じることのできる副次的な結果ももたらされた。

コロナによって人との関わり方が不自由となり、これまで以上に課題を抱え独りで悶々としているわたし自身にとって、パソコンの画面越しではあったが、お互いに不安や悩みを語り合い、共に聞法することの大切さと有り難さを噛み締めることのできた研修となった。

続いて今回の研修会を担当した委員からの報告に全体像を見ていただきたい。

2、研修の様子(勸山)

リモート研修は、二度の講義と班別の攻究・座談という例年の伝道研修の形式に沿って行われた。酒井氏、百々海氏は、「仏教が、いつもその時代の現実に苦しみ悲しむ人々を包み込み、立ち上が

らせてきたこと」、「教えを聞き、聞いた教えを大切に伝えてきた歴史を止めないこと」を呼びかけて下さった。

攻究・座談では、法要やお斎をめぐる現在の課題に加え、ワクチン未接種者への厳しい目線などこれから起こりそうな問題についても話し合われた。忌憚されがちな問題を抱え込んで独断せず、率直に意見を交換できる時間となった。

3、研修内容への思い(松林)

新型コロナウイルス感染症の流行により、昨年度は中止となった伝道研修会。未だ収束しない状況のなか、今年度の開催に向けた部会ではこのことを抜きにテーマを考えることはできなかった。

現場は大きな影響を受けている。「コロナによってでなくなつた」との嘆きに潜む、「これまでできていた」という懈怠を問い返しながら、私たちは「これから」について語り、考えていかななくてはならない。これまで、そして、これからを貫く課題に向き合う場が伝道研修会であると思う。今年度は現状を報告・情報交換しながら課題を共有させていただいた。



門徒と僧侶で創る元気なお寺づくり

第14組専興寺住職 浅野 怜（1937年生まれ）

専興寺は本山の寺院活性化支援室が主催する「門徒と僧侶で創る元気なお寺アワード」を受賞。

住所：愛知県碧南市松江町1丁目20

門徒の寺離れ、仏事の簡略化、仏壇・墓じまいなど、寺のあり方に危機感を抱いていた折、タイミング良く教区主催の「お寺の元気塾」という研修会が開催される機会に恵まれ、門徒の中山昭夫氏と共に参加した。その研修会で得たことは、「一般企業の経営活動（企業の存続価値・経営理念・顧客の要望・長期ビジョン）」を参考にお寺も考えるべきだということである。

そこで今何をすべきかを熟慮し、①経営理念の明確化、②経営委員会発足の二点に取り組んだ。

①については、「専興寺の存続価値は何か」「何を提供できるか」「地域にどのような貢献できるか」で、次のような「専興寺の経営理念」を経営委員会で慎重に審議して決めた。「専興寺は真宗の教えに基づき、過去の遺徳に触れ、『生かされている私』を気づかせるお寺として、常に『寄り合う空間・心が安らぐ時間』の提供に励み、末永く多くの方々から親しまれるお寺をめざす。」

②については、お寺も社会情勢の動向を捉え、ニーズに応える工夫が

必要であると考えて、当山のご門徒の中から、地域の経営者、官公庁や高校教員のＯＢの方々から8名を選出し、委員会を構成した。委員会の役割は定期的に会議を開き、お寺の評判や要望などのニーズを確認し、お寺の経営に寄与するような意見を提案してもらうことである。

従来実施している「報恩講」「聖徳太子会」「永代祠堂法要」「本堂再建記念法要」「和讃講・十日講」「東本願寺報恩講団体参拝」などの他に次のような新たな事業に取り組んでいる。

◆「寺報」の発行（4カ月に1回）

◆「寺力フェ7676」（場の提供）

気軽に訪れ、心安らぐ空間の提供。愚痴・悩みごとを語り、自己を解放して、お念仏の世界を共有する場。

◆「筆ペンの会（書写）」

（毎月第1金曜日）

◆「専興寺納骨墓」の新設と法要。

◆「法話に親しむ会」

落語、ピアノ演奏、相撲甚句などの催しで気軽にお寺に親しんでもらう。

◆「7676ヨガの会」

（毎月第2・4火曜日）

◆「年越しコンサート」「除夜の鐘」「修正会」

地域の皆さんと美味しい年越しそば、おでん、お酒などをいただき、コンサートを聞きながら新春を迎える。

◆「ラジオ体操とおあさじ会」

（日曜日以外毎朝6時30分）

◆「宗祖親鸞聖人ご命日の集い」

（毎月28日）

◆「花まつり・初参式」

◆「夏休みラジオ体操とおあさじ会」

専興寺は「最近明るいわね」「人がよく集まるね」との声が聞こえてくる。専興寺は元気だ!!

しかし、コロナ禍の影響で寺は教化の場を、門徒は聞法や仏事の場を奪われ、お寺としての機能が十分発揮できない状況にもある。

この現状を乗り越えるためにも、またコロナが終息したときに、希薄となつたお寺と門徒との結びつきをどのように回復し、教化事業や仏事を展開するのが大きな課題である。こつしたときにこそ経営理念のもと、経営委員会の知恵を借りて、抜本的な対策を講じたいと考えている。



新設の専興寺納骨墓



筆ペンの会（寺カフェ7676にて）



夏休みラジオ体操とおあさじ会



田原惟信(たはら ゆいしん)
1909(明治42)年～2008(平成20)年 愛知県安城市生まれ。第17組願力寺出身。真教寺第3代住職。

田原惟信という人を知っていますか

～沖縄に渡った岡崎教区の先達の足跡をたずねて～

岡崎教区駐在教導 ^{すぎやま} 杉山 ^{やすし} 寧

1965年生。2015年9月から岡崎教区駐在教導。

第三回 「遺骨収集は生存者の責務ではないか」

『私の戦後史』（沖縄タイムス社編）に「るいるいと横たわる、しかばねを乗り越えて私たちは生を得た。そのしかばねをいつまでも風雨にさらすのはしのびない。収骨供養は生存者の責務ではないか」と惟信氏はのちに真和志村の村長となる金城和信氏に語ったと記している。

一九四五（昭和二十）年四月一日、米軍の本島上陸で戦闘が激しさを増すなか、惟信氏は仲尾次盛忠氏（八幡神徳寺住職・那覇市安里）、藤井深忍氏（大典寺住職・那覇市松山）と三人で南部へと逃げた。識名あたりで首里城の炎上もこの目で見たという。

途中、東風平の壕では、降り続く雨による落盤事故で一命を落としかけ、隠れていたサトウキビ畑で米軍の火炎放射を浴びせられるなど、水、食料もろくにない状況で摩文仁の海岸まで逃げ延び、そこで米軍の捕虜となった。

約三カ月の捕虜収容所の生活で金網ごしに見たものは、僧侶の姿のない原野に穴をほった野辺送りだった。住職

である惟信氏にとってはいたたまれない光景だったという。

収容所から解放された惟信氏は知り合いとなった金城和信村長とともに村民の協力を得ながら遺骨収集を始めていく。摩文仁に近い米須周辺の山野に散らばる遺骨は三万五千体となり、その遺骨を収めた場所は沖縄で最初に建立される「魂魄の塔」となった。

青年期に画家を志し絵筆を握ることを希望した惟信氏の手は戦争犠牲者の遺骨を拾う手となり、「ひめゆりの塔」「健児の塔」と三塔建立へとつながっていく。

沖縄陸軍病院第三外科壕で犠牲となった女学生を悼む「ひめゆりの塔」の脇には惟信氏が揮毫した歌碑があり、遺骨収集の足跡を偲ぶことができる。

沖縄では、組織的な戦いが終わった六月二十三日を「慰

霊の日」と定め、毎年、全島で戦争犠牲者を追悼している。親族の遺骨を拾うことができない

かった人々は「魂魄の塔」に参詣するという。

田原惟信氏が残した仕事の熱誠は、戦後七十五年以上経っても変わらない。



惟信氏と歌碑



ひめゆりの塔の脇にある歌碑
(写真一番右)
写真提供：ひめゆり平和祈念資料館

ひめゆりの塔の脇にある歌碑
「いわまくら かたくもあらむ やすらかに
ねむれとぞいのる まなびのともは」
詠み人 仲宗根政善氏

みんなの掲示板 おいでんみりん

日 日時 会 会場 講 講師 内 内容 テ テーマ 持 持ち物 費 参加費 対 対象 問 問合せ

※新型コロナウイルス感染症の影響により、急ぎよ変更となる場合があります。

地域

赤羽地域教化センター

声明作法研鑽会

日 10月5日(火)

11月9日(火)

12月7日(火) 全て19時～20時

講 織田 顕慶氏(第8組宿縁寺)

内 10月5日 初速夜の勤行

11月9日 大速夜の勤行

12月7日 結願日中の勤行

持 大谷声明集 昭和法律式

費 無料

対 どなたでもご参加いただけます。

問 赤羽別院

☎ 0563-72-2308

東三河地域教化センター

声明講習会

日 10月15日(金) 13時～17時

講 園家 信勇氏(本願部参衆)

テ 「大谷派の装束について」

内 大谷派の装束の歴史、種類から実際の
依用まで講習する。

費 無料

対 教区内住職、寺族

会 豊橋別院

聖教学習会

日 11月2日(火)

講 平原 晃宗氏(大谷中・高等学校
宗教科講師、京都教区正蓮寺住職)

テ 「歎異抄」

費 500円

持 真宗聖典、間衣・輪袈裟(有僧籍者)、
念珠

対 教区内住職、寺族

会 豊橋別院

☎ 0532-52-5083

問 豊橋別院(声明講習会・聖教学習会とも)

静岡別院

「別院さんの公開講座」(法話)

日 10月13日(水) 14時～16時

講 海 法龍氏(神奈川県長願寺住職)

テ 「人間の本質」

日 11月13日(土) 14時～16時

講 武田 定光氏(東京都因速寺住職)

テ 「一人一世界」への覚醒

費 無料(2回とも)

会 静岡別院(2回とも)

問 静岡別院

☎ 054-253-1737

組、有志で公開学習会の案内掲載希望の場合は教務所へお問い合わせください。『MAST』は年3回の発行予定です。紙面の都合で、掲載できない場合があります。

Shinran
850th
800th



南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

へ慶讃テーマ

〈2023年 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年 慶讃テーマ〉



検索 慶讃特設サイト

書籍の紹介

はじめて読む

浄土真宗の聖徳太子

東館紹見 監修
真宗大谷派教学研究所 編



宗祖親鸞聖人が父母と慕い、和国の教主と仰いだ聖徳太子とは、いったいどのような人物なのか。

聖徳太子1400回忌を迎え、日本史上もつとも有名な偉人である一方その存在さえも議論の的とされてきた太子について、現代に伝わるさまざまな事績をたどり、その上で親鸞聖人が出遇った太子、そして浄土真宗のなかで伝えられてきた太子像をたずねる一冊。

東本願寺出版
定価 385円

教区慶讃事業の取り組み

このたび「岡崎教区宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業推進委員会」を設置し、今後、教区の慶讃事業を推進してまいります。

教区慶讃事業は「共に」を生きたる」を基本理念とし、教区の様々な課題に向き合い、あらゆる人が関わる共同参画の事業として創造・展開します。

50年先の教区の将来を見据え、「青少年教化への取り組み」「教区教学研鑽機関の設置」「教区教化体制の構築」「情報の共有」について、重点的に取り組み、盤石な体制となるよう努めてまいります。

住職就任

第31組 明照寺 大草 知裕

〔2021年4月28日任命〕

第24組 和徳寺 穴戸 昭

第34組 敬信寺 谷本 修

〔2021年5月28日任命〕

第12組 玉照寺 小栗 貫次

〔2021年6月28日任命〕



編集後記

慶讃法要まで二年を切り、慶讃事業が活発化し今後の『MAST』においても慶讃法要の字数が増してくるようになっています。

近頃は「コロナのせいで…」と思うことが多々ありますが、そんな時代に慶讃法要へ向かっていくのも何かの縁。宗祖の御誕生と立教開宗が私の上でどのような意義があるのかと、「コロナだから…」より問題が明らかになった私の問題を照らし合わせて考えていきたい。

(編集:うえの)

法語

人と生まれた悲しみを知らないものは
人と生まれた喜びを知らない

金子大榮

かねこ 金子 だいえい 大榮

1881年(明治14年)～1976年(昭和51年)新潟県生まれ。東洋大学教授、大谷大学教授・同大学名誉教授、真宗大谷派宗務顧問を歴任。

※この法語は『日めくり法語 一語一遇』(東本願寺出版)より抜粋しました。教務所にてお買い求めいただけます。

みなさまの声をお聞かせください

『MAST』に対するご意見、ご要望をお寄せください。下記メールアドレスにて受け付けております。より多くの方に、手に取っていただける広報誌にするためにみなさまのご協力をお願いします。

岡崎教務所 (MAST担当) okazaki@higashihonganji.or.jp



岡崎教区ホームページ



岡崎教区facebook